

## 「海のお仕事」

港湾課港湾係 中江克公

あ、どーもどーもどーも。港湾課のさわやか海坊主こと中江です。早いもので港湾課に赴任して半年が経ちました。これまでに感じたことを、そこはかとなく書き綴りたいと思います。

港湾課は6F南棟の西側に位置し、総勢18名です。係は管理係、海岸係、港湾係の3つあり、日々、海に関する様々な業務を行っています。執務スペースは若干狭くなっており、昼休み後に発生する汚物（汗まみれランT・タオル等）の乾燥場所が、打ち合わせスペースの奥にしかなく、昼から港湾課にて打ち合わせをされる方々に多大なご迷惑をおかけしていることを、この場を借りてお詫び申し上げます。一応ファブリース（W除菌）はかけてあります。県庁は東公園という恵まれた環境があり、昼休みにはウォーキング、キャッチボール、インターバル等々、楽しむことができ、運動後は地下のシャワー室で裸の付き合いもできますので、よい気分転換になります。出張や業務で昼休みに走れないこともありますが、基本的に走りやすい職場環境です。



感じたこと①は、「スケールのデカさ」です。港湾の防波堤や岸壁に使われるケーソンは3階建てのビルくらいあり、航路や泊地の浚渫土量は桁違いのボリュームです。土木技術者として、海洋工事は難しいですが、非常にやりがいがあると思いますよ。港湾の将来像を決める港湾計画は、たくさんの有識者の意見や企業ヒアリングの結果を基に策定されたものを、国土交通大臣に提出し承認を得

なければなりません。とにかくデカイのです。アレが。

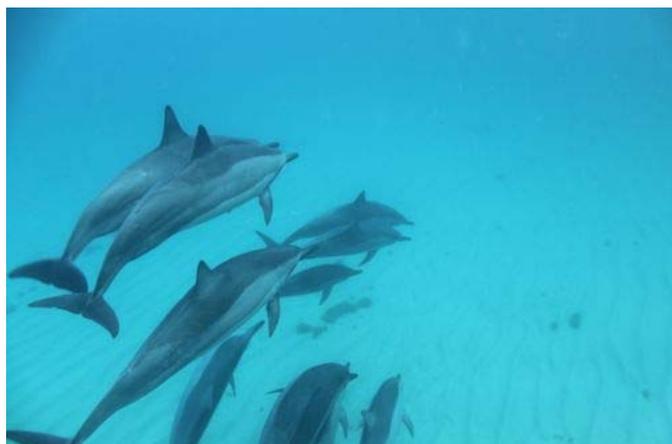
感じたこと②は、「港湾は島国日本にとって、なくてはならない施設」ということです。日本の貿易量の99.7%は港湾を経由しているって事実を知ってましたか？私は知りませんでした。もしも港湾の整備を怠ると今まで安く買っていた服が値上がったり、発電所へ燃料が送れず停電したり、等々。つまり、自分たちの生活に直結してるってことです。アレをするにも一苦勞になる訳です。

感じたこと③は、「土木以外にも目を向けられる」ということです。港湾は企業に使ってもらってなんぼの施設ですので、企業へヒアリングに行く事もあり、工場見学したり、綺麗な受付のお姉さんと会話することができます。また、国際航路が開設されている港は

海外の船が入って来ており、外国の方と触れ合えるチャンスもあります。アレに目を向けることができる訳です。

感じたこと④は、「生命や財産を守る施設」ということです。東日本大震災での津波被害が記憶に新しいですが、県でも背後地の人命や建物を守るため、防災事業を行っています。港湾施設は災害時の人や物の交流拠点としての機能を持ったものもあり、当然ながら生命や財産を守る大切な施設なのです。アレが第一。

感じたこと⑤は、「海はきもていー」ということです。業務上、現場見学等で船に乗ったり、砂浜を散策したり、海を感じる機会が多いのですが、本当にきもていーのです。今まで、道路や河川や砂防の現場に行った時の感覚と少し違って、そこには仕事+αがあるような気がします。母なる海。生命の起源である海を見ると、人は皆癒されるのでしょうか…。理由はよくわかりませんが、とにかく



海はきもていーです。アレもきもていー。あ、冬は寒いので現場は遠慮しますが、何か？

以上、思いついたことをつたない文章で綴ってみました。最後まで読んでいただき誠にありがとうございました。本当に詳しい港湾課の業務内容については、「平成23年度県土整備行政の概要 P156～P170」をご参照下さい。私の半年間の知識では到底説明できない内容が網羅されております。日々の生活に感謝。